

氏名：遠藤理紗

大学名、学年：聖マリアンナ医科大学 2年

参加 session：SCOPH

今回、初めて世界総会に参加させていただきました。

初日から人数の多さに圧倒されましたが、たくさんの元気と日本での活動のヒントを得られた、非常に濃い1週間で過ごすことができました。

今回の世界総会に参加するにあたって、2013年度ぬいぐるみ病院プロジェクトコーディネーターとして「海外のぬいぐるみ病院の情報をできるだけ多く集める」ということを目標に過ごしました。SCOPH SessionでのSmall Working GroupではTeddy Bear Hospitalがテーマとしてあったので、海外のぬいぐるみ病院の方々に集まることができました。残念ながら、セッションはぬいぐるみ病院のロゴの決定とマニュアルの説明で終わってしまったのですが、他の場所で話を聞くことができました。海外のぬいぐるみ病院はファンディングや啓発活動がとても盛んであり、他の委員会と合同で実施をしているところもあり、日本は学ぶことが多くありました。一方で、学生のための情報共有のイベントを開いているのは、私が知るところ日本だけであり、この機会を大切にし、より有意義な時間にしていきたいと思いました。

今回は、それぞれの国について深く話を聞くことができませんでした。参加者とは、その後Facebookでつながることができました。このつながりを途切れさせることなく、ぬいぐるみ病院発展のために大切にしていきたいと思います。

また、今回の世界総会参加に当たり、私は英語力のなさを一番懸念していました。大学受験からほとんど手を付けていなかったため、英語を聞き取るのも一苦労、自分の意思を伝えることもかなり大変でした。世界総会参加を勧めてくださった先輩方に「英語で伝えようという努力ができれば大丈夫」と言われ応募を決めましたが、実際2人で会話することはなんとかできても、議論に加わったり、なまりの強い方の英語を聞き取ったりすることは正直ほとんどできませんでした。

そんな中で、ぬいぐるみ病院の方々との関わりは私にとってとても心強いものとなりました。ぬいぐるみ病院の方々は、英語の拙い私との会話でも、なるべく簡単な言葉を選んで話してくれたり、1回で伝わらなくても嫌な顔をせずもう1度ゆっくり話してくれたり、とても優しく接してくれました。このようなぬいぐるみ病院の方々の優しさは世界総会の中でも際立っていたと思います。普段のぬいぐるみ病院の活動では、医療の専門用語を簡単な言葉に言い換えて子どもに説明したり、子どもが言いたいことをこちらが汲み取ったりする場面が多数あるのですが、世界総会でぬいぐるみ病院の方々がくれた優しさは、普段の活動の中で何気なく行っていることであり、ぬいぐるみ病院で活動したからこそ身に着けることのできた優しさだと思います。私は世界総会で、たくさんのあたたかみに触れることができたと同時に、自分の活動に誇りをもつことができました。

最後に、世界総会参加の機会を与えてくださったIFMSA-Japanの理事の方々、世界総会中にお世話になった日本の参加者のみなさまに感謝申し上げます。

ありがとうございました。